

飯島賢二の 『恐縮ですが…一言コラム』

第 484 回 オリンピック様様の2週間

2012.8.5

夏休み真っ盛りというのに、旅館が満館になっていない。もちろん原因はいくつもあるだろうが、どうも、その一つがオリンピックのようである。一部の飲食店からも、同じような話を聞いた。お家でオリンピック(以下、五輪)のテレビ観戦が2週間も続くのだ。

ロンドン五輪の経済効果は165億ポンド(約2兆680億円)で6万2200人の雇用を創成！今回、新たに試算を発表したのは英国のロイズ銀行グループ(ロイズTSB)で、ロンドンへの五輪招致が決まった2005年から、五輪終了5年後の2017年までの経済効果をまとめたものだ。それによると、全体の経済効果の約3分の1にあたる50億ポンド(約6250億円)が五輪終了後の5年間で見込めるといふ。これは五輪施設が他の有用な施設に転用され、観光客が引き続き訪れることを想定したものだ。さらに五輪の開催が大衆に“幸福効果”をもたらし、消費支出の上昇を引き起こすとしている。

またこんなデータもある。

電通総研は五輪による国内への経済波及効果を約8000億円と試算しており、低迷する消費の“起爆剤”として五輪への期待が高まっている。ロンドン五輪が開幕し、関連商戦も熱気を帯びてきた。コンビニエンスストアは深夜に自宅観戦する人が増えるのみで、おつまみなどの軽食を値引き。スポーツ用品メーカーは選手が着用するユニホームや水着などと同じ型の商品の販売が伸びると期待し、特設売り場を設ける動きもある。これまでの五輪商戦は、観戦用テレビの買い替え需要が牽引してきた。だが、昨年3月の家電エコポイント制度終了や、同7月の地上デジタル放送移行前の駆け込み需要があったため、テレビ販売は低迷したまま。このため、電通総研はロンドン五輪の経済波及効果を8037億円と試算、4年前の北京五輪に比べ3割ほど減るとみている。ただ、日本選手の活躍次第では414億円上乗せされる可能性があるという。

まさに五輪様様…の2週間である。

小生、いささか「天邪鬼(あまのじゃく)」ゆえ、五輪の期間中はすこぶる機嫌が悪い。

スポーツそのものを批判する立場にないが、五輪の運営、IOC(国際オリンピック委員会)の在り方、テレビ報道のバカバカしさ、そしてオリンピック商戦と称する儲け主義の横行を見るにつけ、ホトホト、嫌になってくる。

「メダルが取れなくて、ごめんなさい」涙を流すアスリートの姿、テレビで何回垂れ流せば気が済むのか、かわいそうで見たいられない。NHKも民放も、時間構わず同じことを流し続け、どうでもいいタレントをロンドンに送りつけ、ただ観戦させ、はしゃぐだけのお決まり企画は、報道局としてのプライドなんぞ、あったものではない。

それでも4年に一度の五輪、素直におもしろがればいいじゃん！

そんな風潮が堪らない。退廃した今様日本を如実に表しているようだ。

政治情勢がどうなるか混沌とする中、税務行政のトップ国税庁長官人事が決まらず、それに伴い主要3ポスト東京、大阪、関信各国税局長も決まっていない、異常事態である。昨日まで、あれほど正義面(づら)して騒いでいた原発問題や沖縄基地問題…そんなことはすっかり忘れてしまったようなテレビ局。

それでも、何でも、テレビは五輪一色、昨日までのことは、また後で、五輪が終わってからは、実にお気軽国家になったものだ。